

【史料紹介】

善道坊史料『諸道具調帳』について

松宮 加奈

一、はじめに

『諸道具調帳』は立山博物館に寄託されている善道坊文書である。善道坊は芦峯寺にあった宿坊の一つであり、多くの史料が伝えられている。当史料は明治から昭和にかけて善道坊家にあつたと思われる道具の一端を示すものであり、芦峯寺の宿坊にどのような道具があつたのかをうかがう事の出来るものである。

二、『諸道具調帳』について

形態は縦帳で、全丁数は表紙併せて十九丁（うち墨付きは十四丁）。十二丁目から十四丁目までには水平に中折れ線が入っている。一ページにつき十一行で二段に書かれている。以下に翻刻を示す。  
なお、傍線があるものは朱字で書かれたものであり、網掛けはインクで書かれたものである。

大正二年二月十日

諸道具調帳

第壹號 善道閣四十八番

佐伯道範代

注意

書井朱字ト○印ノアルハ明治三十三年十一月現在品  
ニシテ其他ハ新調セシモノ

注意

天保年間四十六代龍泰老僧諸道具  
調査帳ハ一部別ニ保留ス

佛具類

○本尊阿弥陀如来

○西方旧佛不動諸位牌

○古三宝 二個

花立■カラツ 二對

○朱ろうそく立 壺對

前机金碗 五個

但シ台附内三ツ蓋附

三ツ足真ちう製 壺個

但シ鈴及獨鈷置

○唐高座疊附 壺個

○法華経箱入 壺個

一丁表

一丁裏

○東方不動明王

○茶水茶鉢 二個

白木小三宝 二個

○金花瓶 壺對

○真ちう香爐 三ツ

○獨鈷 壺個

○鈴 壺個

○大金珠 壺個

但打棒台附

○脇机 一對

○見台 二個

三丁表